

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 3 月 31 日現在

機関番号：10102  
 研究種目：基盤研究（B）  
 研究期間：2009 ～ 2011  
 課題番号：21330196  
 研究課題名（和文） 日韓中の協働による相互理解のための国際理解教育カリキュラム・教材の開発  
 研究課題名（英文） Development of teaching/learning materials and curriculum on mutual understanding among Japan Korea and China  
 研究代表者  
 大津 和子（OTSU KAZUKO）  
 北海道教育大学・教育学部・教授  
 研究者番号：80241397

**研究成果の概要（和文）**：日韓中の相互理解を深めるための教材を3ヶ国で協力して開発するために「食」「人間関係」「人の移動」の3つの大単元を設定した。各単元で開発した教材を3ヶ国での実験授業を通して改善し、学習者の発達段階に応じ単元カリキュラムとして構成した。  
**研究成果の概要（英文）**：In order to facilitate learners to understand deeper, the project team which consists of Japanese, Korean and Chinese members developed teaching/learning materials on Food, Human relations and People's movement, and set up them as the three unit curriculum.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	4,300,000	1,290,000	5,590,000
2010年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
2011年度	5,400,000	1,620,000	7,020,000
年度			
年度			
総計	13,100,000	3,930,000	17,030,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学

キーワード：日韓中相互理解・教材開発・食文化・人間開発・人の移動

## 1. 研究開始当初の背景

東アジア文化圏に属する日本、韓国、中国は、古来、近隣国として歴史的に密接な関係にあり、グローバル化の進展とともに3か国間の人の移動はいっそう頻繁になってきた。また、近年、「東アジア共同体」構想が注目されるようになり、その中核国と目される日本、韓国、中国の連携の重要性が指摘されている。

が、日韓中3か国の国民レベルにおける相互理解は十分とはいえない。歴史教育の分野では、日韓、日中の共同研究が進み、相互理解のための教材も開発されつつあるが、国際理解教育の分野においては、本研究が初めて

の本格的共同研究である。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、第一に、3か国共通のテーマで教材・カリキュラムを開発することである。共通のテーマを扱うことにより、日韓中3か国の文化の違いだけでなく、文化の共通性および相互の繋がりをも学ぶことができるからである。

第二に、各国の学習者の発達段階に応じた教材・カリキュラムを3か国の協働により開発することである。アイデアや情報を持ち寄って教材案を構想し、日韓中3か国の学校で実験授業を試み、改善を図ってきたが、この

点に関しては、教材の翻訳や授業時の通訳などに多大な労力を要した。

第三に、教材・カリキュラム開発のプロセスにおいて、日韓中3か国の研究者および教員が相互理解を深めることである。3年間にわたって研究会を重ねることにより、日韓中の授業観や学校文化の違いと共通点について、理解を深めることができた。

### 3. 研究の方法

3か国の研究者および学校教員による研究グループをテーマごとに編成し、グループ毎に調査や情報収集などを重ねて、教材開発を行った。開発した教材・カリキュラムを、研究分担者や研究協力者だけではなく、日韓中3か国で広く活用される教材集を作成し、国際理解教育の共有財産とすることである。そのために、日本国際理解教育学会が開発したフォーマットで学習指導案を示し、日韓中3か国語で報告書を執筆した。

### 4. 研究成果

「食」「人間関係」「人の移動」の3つの大単元のもとにそれぞれ複数の教材を開発し、発達段階に応じて単元カリキュラムを構成し、研究成果を報告書（全部430頁）にまとめた。

A「食」単元では、「麺」グループが3か国におけるラーメンをめぐる食文化やラーメンを通じた3か国のつながりを内容とする教材を開発して、日本、韓国、中国で実験授業を行った。「米」グループは、「米」をめぐるグローバル化とローカリゼーションをとりあげた教材を開発し、日本で実験授業を行った。

B「人間関係」単元の「生活文化」グループは、家族・教師・友人との付き合い方の違いと共通点を内容とする教材を開発し、日本、韓国で実験授業を行った。「ことばと生活文化」グループは、「ホームステイ」という場面を扱った教材を開発し、日本、韓国、中国で実験授業を行った。

C「人の移動」単元の「移民」グループは、ハワイ移民、ブラジル移民をテーマにした読み物教材を開発して、日本と韓国で実験授業を行った。「留学生」グループは、留学生にとっての異文化理解や生活の中で直面している諸問題をとりあげた教材を開発して、日本と中国で実験授業を行った。

「旅行」グループは、3か国の文化や歴史、つながりなどを理解するための双六教材を開発して、日本、韓国、中国で実験授業を行った。いずれも、実験授業の結果を検討した上で、教材・カリキュラムの改善を図った。

研究成果をまとめた報告書は第一部実践編と第二部資料編からなり、目次は、以下の通りである。

## 【第一部実践編】

### 第I章「食」をテーマとした教材開発

1. 研究の経緯と大単元の構造
  1. 1 研究の経緯
  1. 2 「食文化」の内容構成
2. 小単元「ラーメン」
  2. 1 研究の目的と方法
  2. 2 「ラーメンから比べてみよう」の実践と評価
  2. 3 「三国ラーメン物語」野実践と評価
3. 小単元「米」
  3. 1 研究の目的と方法
  3. 2 「お米から比べてみよう」の実践と評価
  3. 3 「米づくりの未来—国の政策とある農家のあゆみから」の実践と評価

<韓国語訳>

<中国語訳>

### 第II章「人間関係」をテーマとした教材開発

1. 研究の経緯と大単元の構造
  1. 1 研究の経緯
  1. 2 「人間関係」の内容構成
2. 小単元「三国物語」
  2. 1 研究の目的と方法
  2. 2 「三国物語—おじいちゃんの誕生日」の実践と評価
3. 小単元「ホームステイ」
  3. 1 研究の目的と方法
  3. 2 「ホームステイ」の実践と評価

<韓国語訳>

<中国語訳>

### 第III章「人の移動」をテーマとした教材開発

1. 研究の経緯と大単元の構造
  1. 1 研究のはじまり
  1. 2 教材開発「人の移動」のためのキーコンセプト
  1. 3 研究計画と初期構想
  1. 4 読み物資料の作成と大単元構造図の作成
  1. 5 日韓中三か国協同国際理解教育プロジェクトの感想（韓国）
  1. 6 日韓中三か国協同国際理解教育プロジェクトの感想（中国）

<韓国語訳>

<中国語訳>

2. 小単元「移民」
  2. 1 研究の目的と方法
  2. 2 「移民」の実践と評価
3. 小単元「留学生」
  3. 1 研究の目的と方法
  3. 2 「留学生」の実践と評価
4. 小単元「旅行すごろく」
  4. 1 研究の目的と方法
  4. 2 「旅行すごろく」の実践と評価

- 4. 2. 1 「韓国旅行すごろく」(日本人対象)
- 4. 2. 2 「中国旅行すごろく」(日本人対象)
- 4. 2. 3 「日本旅行すごろく」(韓国人対象)
- 4. 2. 4 「日本旅行すごろく」(中国人対象)
- 4. 3 事前・事後アンケートの結果と両国の比較分析

<韓国語訳>

<中国語訳>

**【第二部資料編】**

**第Ⅰ章「食」をテーマとした教材開発**

- ①三国ラーメン物語—大学実践編
- ②指導案「お米から探ってみよう—日本と朝鮮半島の近代史」
- ③「米作りの未来」の資料

**第Ⅱ章「人間関係」をテーマとした教材開発**

・「生活文化」グループの教材事例

・「ことばと生活文化」の教材と説明

- ①「韓国ホームステイ」(日本語版)
- ②「日本ホームステイ」(日本語版)
- ③「日本ホームステイ」(韓国語版)
- ④「日本ホームステイ」(中国語版)
- ⑤「韓国ホームステイ」説明書(日本語版)
- ⑥「韓国ホームステイ」説明書(韓国語版)
- ⑦「日本ホームステイ」説明書(日本語版)
- ⑧「日本ホームステイ」説明書(韓国語版)

**第Ⅲ章「人の移動」をテーマとした教材開発**

<移民・留学生関連>

- ①「中国の日韓留学生に見る人口移動」実践と分析(中国語)
- ②「中国の日韓留学生が直面する問題—文化の衝突」の授業設計(中国語)
- ③「中国の日韓留学生が直面する問題—文化の衝突」の授業後の分析(中国語)
- ④「中国の日韓留学生が直面する問題」後の研究討議会記録(中国語)
- ⑤「中国の日韓留学生に見る人口移動」後の研究討議会記録(中国語)
- ⑥「中国の日韓留学生が直面する問題—文化の衝突」の授業設計(日本語)
- ⑦「中国の日韓留学生に見る人口移動」授業後の分析(日本語)
- ⑧「中国の日韓留学生に見る人口移動」後の研究討議会記録(日本語)
- ⑨読み物資料「人はなぜ移動するのか」(日本語)
- ⑩読み物資料「人の移動は何をもたらすか」(日本語)
- ⑪読み物資料「なぜコリアンが日本にいるのか」(日本語)

- ⑫読み物資料「ハワイの日系人」(日本語・韓国語・中国語)
- ⑬読み物資料「ハワイの韓国人」(日本語・中国語)
- ⑭読み物資料「ブラジルの韓国人」(日本語・韓国語)
- ⑮読み物資料「ブラジルの日系人」(日本語)
- ⑯読み物資料「韓国からの留学生(日本語)」
- ⑰読み物資料「中国の日本人留学生」(日本語・中国語)
- ⑱読み物資料「中国の韓国人留学生」(日本語・中国語)
- ⑲読み物資料「渡辺忠温さん」(日本語・中国語)
- ⑳読み物資料「許香順さん」(日本語・中国語)

<旅行すごろく>関連

- ①マスカード・特別カードの概要
  - ②日本人対象韓国すごろく地図(小学校)
  - ③日本人対象韓国すごろくマスー覧・特別カード(小学校)
  - ④日本人対象韓国すごろく地図(中学校)
  - ⑤日本人対象韓国すごろくマスー覧・特別カード(中学校)
  - ⑥日本人対象中国すごろく地図(小学校)
  - ⑦日本人対象中国すごろくマスー覧・特別カード(小学校)
  - ⑧日本人対象中国すごろく地図(中学校)
  - ⑨日本人対象中国すごろくマスー覧・特別カード(中学校)
  - ⑩韓国人・中国人対象日本すごろく(小学校マニュアル)
  - ⑪韓国人対象日本すごろく(中学校)マニュアル
  - ⑫中国人対象日本すごろく(中学校)マニュアル
  - ⑬韓国人対象日本すごろく地図(小学校)
  - ⑭韓国人対象日本すごろくマスー覧・特別カード(小学校)
  - ⑮韓国人対象日本すごろく地図(中学校)
  - ⑯韓国人対象日本すごろくマスー覧・特別カード(中学校)
  - ⑰中国人対象日本すごろく地図(小学校)
  - ⑱中国人対象日本すごろくマスー覧・特別カード(小学校)
  - ⑲中国人対象日本すごろく地図(中学校)
  - ⑳中国人対象日本すごろくマスー覧・特別カード(中学校)
- <韓国語訳>
- <中国語訳>

**5. 主な発表論文等**

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔学会発表〕(計 14 件)

- ① 栗山丈弘「食をテーマにした日韓共通教材の作成と実践」韓国国際理解学会第 12 回研究大会、2011. 11. 12 (ソウル大学)
- ② 服部圭子、Geon-Soo Han「韓国・日本・中国間の相互理解の展望と課題—移民を通じた国際理解教育に関する共通教材作成を中心に—」韓国国際理解学会第 12 回研究大会、2011. 11. 12 (ソウル大学)
- ③ 栗山丈弘、織田雪江「食をテーマにした日韓共通教材の作成と実践—お米編」日本国際理解教育学会第 21 回研究大会、2011.6.19 (京都橘大学)
- ④ 福山文子、中山京子、服部圭子「日系ブラジル人をテーマとしたカルタ教材の開発」日本国際理解教育学会第 21 回研究大会、2011.6.19 (京都橘大学)
- ⑤ 大津和子、東峰宏紀、田中孝治「韓国・日本の相互理解を深めるすごろく教材の開発」日本国際理解教育学会第 21 回研究大会、2011.6.19 (京都橘大学)
- ⑥ 釜田聡、堀幸美、西村克人、許信恵、金多媛、祖国華「日韓中の協働による相互理解のための国際理解教育カリキュラム・教材の開発—『人間関係』グループの報告」日本国際理解教育学会第 21 回研究大会、2011.6.19 (京都橘大学)
- ⑦ 中山博夫、多田孝志、許信恵、徐宗男「日韓中の協働による相互理解のための国際理解教育カリキュラム・教材の開発—『言葉と生活文化』グループの報告」日本国際理解教育学会第 21 回研究大会、2011.6.19 (京都橘大学)
- ⑧ 栗山丈弘、藤原孝章「食をテーマにした日韓共通教材の作成と実践—ラーメン編」日本国際理解教育学会第 21 回研究大会、2011.6.18 (京都橘大学)
- ⑨ 中山京子「移民をテーマにした日韓共通教材の作成と実践」日本国際理解教育学会第 21 回研究大会、2011.6.18 (京都橘大学)
- ⑩ 服部圭子、森茂岳雄、中山京子「人の移動(留学生)をテーマにした日韓中参加国教材開発」日本国際理解教育学会第 20 回研究大会、2010.7.4 (聖心女子大学)
- ⑪ 大津和子、東峰宏紀、田中孝治「韓国理解を深める双六教材の開発」日本国際理解教育学会第 20 回研究大会、2010.7.4 (聖心女子大学)
- ⑫ 釜田聡、中山博夫、許信恵、多田孝志、西村克仁、堀幸美、若井千草、金宗勲、金多愛、祖国華「日韓中の協働による相互理解のための国際理解教育カリキュラム・教材の開発—『人間関係』グループの研究概要」日本国際理解教育学会第 20 回研究大会、2010.7.4 (聖心女子大学)

- ⑬ 織田雪江、林慶澤、桐谷正信「米を素材にした教材開発—日韓中の共同による相互理解のための国際理解教育のカリキュラム・教材の開発」日本国際理解教育学会第 20 回研究大会、2010.7.3 (聖心女子大学)
- ⑭ 栗山丈弘、藤原孝章、郭文霞、周曉超、徐京田「ラーメン教材の実践とその分析—北京第二実験小学校での実践を中心に」日本国際理解教育学会第 20 回研究大会、2010.7.3 (聖心女子大学)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

大津 和子 (OTSU KAZUKO)  
北海道教育大学・教育学部・教授  
研究者番号：80241397

### (2) 研究分担者

藤原 孝章 (FUJIWARA TAKAAKI)  
同志社女子大学・現代社会学部・教授  
研究者番号：70313583  
中山 京子 (NAKAYAMA KYOKO)  
帝京大学・文学部・准教授  
研究者番号：50411103  
釜田 聡 (KAMADA SATOSHI)  
上越教育大学・学校教育研究科・教授  
研究者番号：60345543  
多田 孝志 (TADA TAKASHI)  
目白大学・外国語学部・教授  
研究者番号：50341920  
桐谷 正信 (KIRITANI MASANOBU)  
埼玉大学・教育学部・准教授  
研究者番号：90302504  
服部 圭子 (HATTORI KEIKO)  
近畿大学・生物理工学部・准教授  
研究者番号：30446009  
栗山 丈弘 (KURIYAMA TAKEHIRO)  
文化学園大学・現代文化学部・助教  
研究者番号：00352493

### (3) 連携研究者

森茂 岳雄 (MORIMO TAKEO)  
中央大学・文学部・教授  
研究者番号：30201817